

## 諸井誠と大阪芸大電子音楽スタジオ

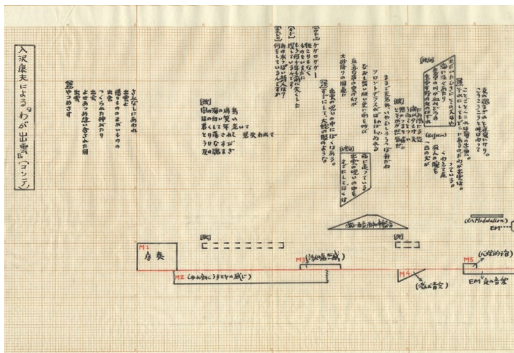
— 大阪芸術大学音楽学科開設 50 年を記念して —

日本の前衛音楽の先駆者であり、西洋音楽と古典邦楽を融合させ、大阪芸術大学では電子音楽スタジオの創設に関わった諸井誠先生が他界されてから本年は 7 回忌にあたる。諸井先生は 1930 年に東京で生れ、1952 年 3 月東京音楽学校本科（現・東京藝術大学音楽学部）作曲科を卒業後、黛敏郎、入野義朗、柴田南雄等と 20 世紀音楽研究所を組織し、1957 年から 65 年にかけて、軽井沢を中心に、大阪、東京などで現代音楽祭を開催した。12 音音楽、電子音楽等をいち早く作品に取り入れ、また、1960 年代からは尺八を中心に各種邦楽器を用いた作品も手がけ、邦楽器とオーケストラの結合を企図した独自のジャンルを開発するなど、現代音楽における先駆的存在として活躍し、国際的評価を得た。音楽教育活動にも取り組み、広島のエリザベト音楽大学を皮切りに、桐朋学園、東京藝術大学、お茶の水大学、大阪教育大学、大阪芸術大学、神戸女学院大学、明治学院大学等で教えた。

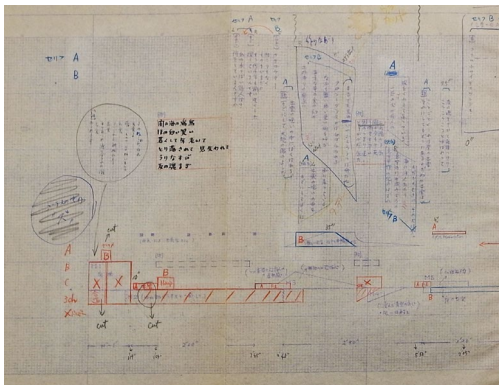


大阪芸術大学では 1968 年に音楽学科教授に就任、71 年からは音楽学科長として 77 年まで教鞭を執った。大阪芸大の電子音楽スタジオは 1968 年 12 月、日本の大学として最初に設置された電子音楽スタジオであり、NHK で日本最初の電子音楽スタジオ設置に技術スタッフとして中心的に関わ

った故塩谷宏先生（元大阪芸大教授）、同電子音楽スタジオのプロデューサーであった故上浪渡先生（元大阪芸大教授）と共に諸井先生が関わり完成した。そうした縁で、日本の初期電子音楽に関する資料も同大学に保存されている。



今回の展示では、諸井先生が作曲した音楽詩劇『わが出雲』（テキスト：入沢康夫 NHK 電子音楽スタジオ制作）の自筆の作品コンテ（左上図・部分）や、コンテを基に作品制作に必要なさまざまな書き込みをした制作メモ（左下図・部分）、原作のテキストなどと共に、諸井先生の自筆楽譜、本学図書館所蔵の「アルファとベータ：ピアノのための、作品 12」「ピアノ協奏曲」などの出版楽譜を展示する。



さらに、当時の電子音楽が収められたアナログ録音テープなどの博物資料も併せて展示し、音楽学科開設当時の新しい音楽について改めて考える機会にしたい。

展示構成・テキスト 芹澤秀近（音楽学科教授）

参考：諸井誠 公式 HP